政治的社会化とスポーツ

藤　原　健　固

A STUDY OF POLITICAL SOCIALIZATION THROUGH SPORT

Kengo FUJIWARA

Political socialization is the deliberate inculcation of the information for politics, social norm and value, and practices by instructional agents, that is to say, politicians. However, in the sense of more broader conception would encompass all political learning, formal and informal, deliberate and unplanned in the daily life. This means both explicitly political learning and nominally nonpolitical learning which would be affect any kinds of political behavior: such as the learning of political social attitudes and the acquisition of politically relevant personality characteristics.

This author, for the present purposes, took of political socialization in the later one.

There are many kinds of the agent of political socialization: school, family, peer group, mass communication, sport and so on. Especially, in this paper, the present author surveyed the influences of sport into the potitical socialization, and discussed its backgrounds in the view of sociology.

The data was collected by the social survey: a 69 item questionnaire designed to 800 respondents during 10, Jun. -5, Jly., 1980.

The main dindings of this study appeared as follows: There were no significant distinctions between the political socialization and sport participation. This conclusion suggests that sport has no any function for political socialization.

However, the present author could say, political socialization is a potential source of change. And, the seeds of change are present.

Ⅰ．研究視点

生物的個体としての人間の誕生は，文化の獲得によってやがて社会的人間に成長する。

その際，文化はおよそ人間がこれまで経験や学習によって得たものすべてを指す。この文化の獲得が教育であり，その内容は知識・技術教育と人間教育に大別される。そして，その方法は試行錯誤(try and error)，模倣(imitation)，学習(learning)が主体である。

このような社会化の観点から，人間と政治のかかわりをみるとき，問題は複雑である。とくに，政治的社会化(political socialization)という場合，それは政治文化の2つの過程を指している。1つは，社会体系の次元であり政治文化が世代から世代へと受け継がれていく過程である。2つは，個人の次元での政治意識の学習過程である。

本稿で扱う次元は後者であり，政治意識とは政治体系のなかで機能する態度，感情，信念，判断などの総称である。

それ故，政治的社会化は人間が文化を獲得していく際の1つの学習の結果である。それは生理的機能と異なり，自然発生的ではない。社会化するものと，されるものとの間で行なわれるものである。

したがって，政治的社会化が社会化のどのようなエージェント(agent)によって行なわれるかは，重要な問題である。その際，一般に家族，学校，仲間集団，マス・コミなどが政治的社会化の重要なエージェントであると考えられている。そして，社会制度の一つとしてのスポーツも例外ではないのである。

家族は，社会化の最初のエージェントである。というのは，人間が生物的個体として誕生してから最初の社会的コミュニケーションを開始するのが家族だからである。親をはじめとする家庭内のコミュニケーションを通じて，生物的個体としての人間は社会的人間への第一歩を踏み出すのである。そして，政治的社会化との関係においても，子どもは他の家族構成員から広い意味で政治意識を感じとったり，それとなく聞かされるのである。いわば，「人々は多くの場合，親と同じような政治的志向をもつ」[1]のである。

学校は主としてコトバによって社会化を体系的にすすめようとする一つの制度である。そして，計画的，経続的な社会化のエージェントとしての学校は，政治的社会化との関係においても，その認知的側面を計画的に且つ経続的に学習させる。と同時に既存の政治体制に順応し得る社会規範・価値を補強する傾向が強い。

仲間集団は，課題達成機能と集団維持機能を内包している。とくに，これらの機能は情緒性に根ざしており，集団構成員の心理的結びつきを前提にしている。それ故，きまりとしての社会規範・価値の補強に深く関係しており，重要な政治的社会化のエージェントである。とくに，仲間集団はサブ・カルチュアとしての性格をもち，その構成員に政治意識との関係においても機能しているのである。

マス・コミは，知的・認知的情報を提供し，且つ方向づける機能をもった一つの社会制度である。政治的社会化との関係において，マス・コミは合意の得られた政治情報や価値を伝達し補強する傾向をもっている。受け手(audience)にとってマス・コミの世界での情報や価値を追体験したり追証したりする余地がほとんど残されてないことから，マス・コミの受け手に与える政治的社会化の機能は無視できない。

そして，スポーツも重要な政治的社会化の一つのエージェントである。とくに，スポーツが政治との関係で論じられるとき，″どんな関係があるのか″という疑問が投げかけられてきた。そして，一般にスポーツは良き市民・国民をつくり，国家の必要とする人間をつくると考えられてきたのである。それはスポーツが社会規範と価値を補強し，政治体制を支える機能をもつ，との前提に根拠をおくからである。

確かに，世界中どの国家をみても多くの人々はスポーツに多大の関心を寄せてきた。そして，どんな国家においても，最大の観客はスポーツ大会のファンだと言っても過言ではない。スター・プレイヤーは国家的英雄であり，その英雄はしばしば国家的要請を背後にもっている。そ

れはスポーツの大衆アピールとコミュニケーションの可能性の認識に基づいている。それ故，多くの国家はその政府をして，社会的政治的変化にスポーツの利用を真剣に考えてきた。歴史的にスポーツは短期間に大きな変化を達成しようとする際，最もシステマティックな関心が払われてきた一つの領域である。例えば，このことはナチ・ドイツ，ファシスト・イタリア，ソビエト連邦などにおいてみることができる。[2] また，わが国もその例外ではない。

スポーツは，既存の社会規範・価値を補強し，政治体制に人々を同調させる多くの象徴的或いは宣伝的な機能をもっている。それは政治イデオロギーとの関連でもみられる。スポーツはリーダーとのフォロワーのパターンを操作したり，小集団の相互作用をも操作し得るからである。例えば，学校の体育や市民スポーツでさえ軍事教育や軍事訓練にしばしば利用され得るのである。[3] それ故，スポーツが時として道具視されるのである。

スポーツの道具視的利用は，全体主義国家に明らかである。それは権威主義的な性格の形成と補強をスポーツに詫することとの関係でみられる場合が多い。その結果，保守的な政治的態度がつくられるのが一般的である。また，全体主義国家でなくてもプレイヤーはしばしば″体制″に従順な権威主義的傾向を強める傾向があるとされてきた。[4] それはスポーツが国家の意向を反映する傾向をもつからである。とくに，施設や選手強化のための国家的な経済援助やパスポートの発給といったことにまで，政府の意向が入り易いのである。

このようなスポーツの国家的・イデオロギー的道具視による社会化とは別に，もともとスポーツは個人をして政治的社会化に向かわせる手段・機能をもっていると考えられる。それはスポーツがその制度の中に種々の儀式，練習，試合，コーチ，・監督，小集団といった社会化を促がす要素を内包しているからである。

儀式は，スポーツにつきものである。具体的には，国旗への敬礼，国家斉唱，大物政治家のスピーチなどがあげられる。スポーツの場におけるこうした種々の儀式が，国家とその諸制度への愛着を強め，政治的正当性の意識をもたらし得ることは十分に予想できることである。それは体制への背定的認知を促がし，政治家への素朴な信頼となり得るからである。

練習・試合は，スポーツそのものである。そこではスポーツ規範・価値が支配し，プレイヤーとファンに対して守るべきこと，守った方がよいこと，を守ることが要求される。このルール遵守が日常生活において社会規範・価値の遵守につながると考えられてきた。また，スポーツがその可能性をもっていることに疑い得ない。それ故，スポーツは既存の政治体制における規範・価値を遵守するべく機能し得ると考えられるのである。

コーチ・監督は，プレイヤーを指導育成し，スポーツそのものを方向づける。その際，コーチ・監督はプレイヤー間のコミュニケーション過程に介在し，その多くは上意下達型である。ここに，ともするとプレイヤーの脱思考現象をみることができる。それは情報の氾濫している現代社会において，スポーツが本質的にもっている価値を無視し放棄することにつながる。

本来，スポーツは″主体的に情報を集め，判断し，実行し，誤りなきことが瞬間的に求められる″ものである。こうした思考様式と行動様式を体得したものが，現代社会において期待される人間なのである。そして，スポーツはその可能性をもっているのである。にもかかわらず，上意下達型のコミュニケーションは，これを容易に実現しない場合が認められる。その多くは，封建的な権威主義を伴った場合である。

封建的な権威主義に基づく上意下達型コミュニケーションがとられる場合，プレイヤーにとって情報の収集，判断は主体的にではなく与えられるものとして存在し，結果に対する責任は自分が負うものではなく″与えた者″が負うものとされる傾向が強い。ここに批判能力の欠如という問題が生じてくる。それは政治的社会化との関係でもいえることであって，コーチ・監督の政治にたいする思考・行動様式を無批判にとりいれる傾向が強くなることが考えられるの

である。

小集団の社会化機能は，強い[5]。とくに，スポーツ集団のような顔と顔をつき合わせた関係（face-to-face relationship）に基づく小集団の場合，成員にたいする社会化機能は無視し得ない。それは小集団が成員の思考・行動様式に修正を加え，方向づけをする機能をもっているからであり，政治的社会化との関係においても例外ではないと考えられるからである。

以上のように，スポーツは政治的社会化を促がす要素を内包していると考えられるが，多くの場合，その影響過程は他の要素との関係で複雑であり一般化しにくい。しかし，全体的にその時の国家，体制，支配政党などへの忠誠心を尊重する傾向をもち易いことは事実である。

そこで，本稿の目的は政治的社会化にスポーツ参加がどのような機能をもっているのかを，調査結果をもとに分析しその背景を考察することにある。

Ⅱ．資料収集

(イ)　被調査者（高校・大学生800名）

(ロ)　調査内容『スポーツと政治的社会化に関する調査』（69項目）

(ハ)　調査方法　アンケート調査

(ニ)　調査時期　昭和55年6月15日～同7月5日

Ⅲ．結果と考察

(1)　政治家にたいする態度

④所属別　高校・大学生を通じて政治家を信頼する割合は低く，54.1パーセントのものが「（非常に）信頼できない」と答えた。高校生よりも大学生の方が信頼しない割合が高く（大学生57.4，高校生50.9），女性よりも男性の方が高かった（男性58.3，女性49.2）。また，スポーツに多く接しているものよりもそうでない一般学生・生徒の方が政治家を信頼しない割合が高かった（体育学部学生および体育クラブ所属高校生54.3，一般学生・生徒57.5）。

項目別にみたところ（表2），とくに「政治家は正直ではない」とする割合が高く（66.0），なかでも体育学部の学生と体育クラブ所属高校生の男性に高かった（74.0）。また，「政治家の演説は信用できない」とする割合は，63.0パーセントであり，男性に高かった（男性67.8，女性58.3）。つぎに，「政治家は多くの人々の利益を実現するように努めていない」とする割合は，49.1パーセントであり，とくに体育学部の男性に高かった（61.0）。さらに，「政治家は新しい法律をつくる場合，有権者とよく相談しているとは言えない」とする割会は47.4パーセントであり，大学生および男性に高かった。さいごに，

表1　被調査者内訳　（%）

所属別	大大学				高校					
	体育学部		非体育学部		体育系クラブ		非体育系クラブ			
	男	女	男	女	男	女	男	女		
	100 (12.50)	100 (12.50)	100 (12.50)	100 (12.50)	100 (12.50)	100 (12.50)	100 (12.50)	100 (12.50)		
年齢別	16齢以下	17 齢	18 齢	19 齢	20 齢	21 齢	22 齢	23 齢	24 齢	25齢以上
	207 (26.01)	120 (15.08)	157 (19.72)	135 (16.96)	125 (15.70)	41 (5.15)	5 (0.63)	3 (0.38)	0 (0.00)	3 (0.38)
性別	男	女								
	400 (50.00)	400 (50.00)								
地域別	大都市	地方都市	田舎							
	219 (27.38)	369 (46.13)	212 (26.50)							

表 2　所属別にみた政治家不信の百分率　(%)

	大学				高校				計
	体育学部		非体育学部		体育系クラブ		非体育系クラブ		
	男	女	男	女	男	女	男	女	
a	(74.0)	(52.0)	(71.0)	(69.0)	(74.0)	(62.0)	(59.0)	(67.0)	66.0
b	(65.0)	(52.0)	(71.0)	(67.0)	(75.0)	(55.0)	(60.0)	(59.0)	63.0
c ※	(61.0)	(40.0)	(52.0)	(53.0)	(50.0)	(32.0)	(48.0)	(52.0)	49.1
d	(61.0)	(42.0)	(64.0)	(54.0)	(51.0)	(25.0)	(51.0)	(41.0)	47.4
e	(53.0)	(41.0)	(54.0)	(57.0)	(49.0)	(21.0)	(49.0)	(37.0)	45.1
平均	(62.8)	(45.4)	(62.4)	(61.0)	(54.4)	(39.0)	(53.4)	(51.2)	54.1

※を除いて　$P<0.05$

注[1]……a…政治家は正直でない。
b…政治家の演説は信用できない。
c…政治家は人々の利益を実現するように努めていない。
d…政治家は新しい法則をつくる場合，有権者とよく相談しているとは思えない。
e…政治家は守ろうと努力していない。

注[2]……「そのとおり」，「まあそうだ」，「やや違う」，「そういうことはない」，「わからない」の五つの選択肢のうち，「そういうことはない」と答えた者のみ抽出。

「政治家は公約を守ろうと努力していない」とする割合は，45.1パーセントであった。

つぎに，年令別に政治家にたいする不信感をみたところ，20才と21才が高く17才は低い傾向がみられた。

また，地域別の政治家にたいする不信感をみたところ，大都市＞中都市＞田舎という傾向がみられた。

以上の分析結果から，次の5点を指摘することができる。①高校・大学生の政治家不信は，半数以上を占めていたこと。このことは若者の政治家にたいする一般的態度を示すものであり，一般に政治家がそれほど信頼されていないことを示唆している。②高校生よりも大学生の方が，政治家を信頼しない傾向が強かったこと。このことは，大学生は高校生に比べそれなりの政治に対する知識や判断をもっており，政治的社会化がすすんでいることを示唆するものである。③女性よりも男性の方が政治家を信頼しない傾向をもっていたこと。このことは，男性の方が政治にたいする知識や判断により積極的であり，政治的社会化がすすんでいる結果であると考えられる。④体育学部の学生および体育クラブ所属高校生よりも，一般学生・生徒の方が政治家にたいする不信感が強かったこと。このことは，スポーツにより多く接しているものは，そうでないものに比べて政治にたいする知識や判断に積極的姿勢をもたず，政治的社会化が遅れていることを示唆するものである。その際，スポーツ集団の権威的性格が政治的に保守的な態度をつくり，それが政治家への不信をやわらげる機能を果していることが考えられる。それはスポーツが国家の意向を反映し，その庇護のもとにおかれている状況と呼応するものである。さらには，スポーツ集団内の，ともすればみられがちな上意下達型のコミュニケーションの結果，脱思考現象が生じ批判精神の欠如も政治家不信をやわらげる機能に与っていると考えられる。⑤地域別にみて都市化の進行に応じて政治家不信が高い傾向がみられたこと。このことは，都市化の進行が単なる人口の増加だけに止まらず，文化的経済的社会的機構と機能の複雑化を意味しており，人々の価値観の多様性と一時性に根ざしていることと深くかかわっている。

㋺　スポーツ参加形態

①直接スポーツ参加　まず，1週間に何時間位スポーツをやるか（体育の授業を除く）についてみたところ（表3），「しない」が26.0パーセント，「12時間以上」というのが16.7パーセン

表 3　直接スポーツ参加と政治家不信

N＝786　(%)

	しない n＝204(26.0)	12時間以上 n＝131(16.7)	1～3時間 n＝308(39.2)
a	138(67.7)	83(63.4)	202(65.6)
b	129(63.2)	86 (65.7)	132(42.9)
c	106(52.0)	61 (46.6)	150(48.7)
d	110(53.9)	51 (38.9)	151(49.0)
e	109(53.4)	52 (39.7)	133(43.2)
平均	(58.0)	(50.9	(49.9)

注[1]，注[2]…表 2 に同じ。　P＜0.05

表 4　間接スポーツ参加と政治家不信

N＝796　(%)

	しない n＝359(17.3)	12時間以上 n＝41 (5 2)	1～3時間 n＝359(45.1)
a ※	98 (71.0)	22 (53.7)	221(61.6)
b	88 (63.8)	22 (53.7)	213(59.3)
c	64 (46.4)	13 (31.7)	169(47.1)
d	71 (51.5)	15 (36.6)	156(43.5)
e	64 (46.4)	16 (39.0)	150(41.8)
平均	(55.8	(42.9)	(50.7)

※を除いて P＜0.05　注[1]，注[2]…表 2 に同じ。

表 5　組織・団体加入と政治家不信

N＝826　(%)

	文　化 n＝168(20.3)	奉　仕 n＝14 (1.7)	宗　教 n＝4 (0.5)	スポーツ n＝456(55.2)	その他 n＝10 (1.2)	加入なし n＝174(21.1)
a	107(63.7)	12 (85.7)	3 (75.0)	299(65.6)	9 (90.0)	121(69.5)
b	97(57.7)	13 (92.9)	2 (50.0)	286(62.7)	7 (70.0)	121(69.5)
c	81(48.2)	8 (57.1)	1 (25.0)	216(47.4)	7 (70.0)	92(52.9)
d	80(47.6)	8 (57.1)	1 (25.0)	213(46.7)	5 (50.0)	98(56.3)
e	69(41.1)	6 (42.9)	0 (0.0)	201(44.1)	8 (80.0)	90(51.7)
平均	(51.7)	(67.1)	(35.0)	(53.3)	(72.0)	(60.0)

P＜0.05
注[1]，注[2]…表 2 に同じ。

ト，そして「1～3時間」が39.2パーセントであった。

つぎに，直接スポーツ参加と政治家不信の割合をみたところ（書3），「しない」(58.0),「12時間以上」(50.9)，「1～3時間」(49.9) であった。

表 6　スポーツ組織の形態と政治家不信

N＝412　(%)

	クラブ n＝336(81.8)	同好会 n＝49 (11.9)	その都度時間をつくる n＝26 (6.3)
a	212(63.1)	35 (71.4)	16 (61.5)
b	207(61,6)	29 (59.2)	14 (53.8)
c	151(44.9)	27 (55.1)	11 (42.3)
d	139(41.4)	32 (65.3)	12 (46.2)
e	130(38.7)	27 (55.1)	13 (50.0)
平均	(49.9)	(61.2)	(50.8)

注[1]，注[2]…表 2 に同じ。　P＜0.05

ⅱ間接スポーツ参加　まず，1週間に何時間位マス・コミを通じてスポーツを楽しむかをみたところ（表4），「1～3時間」が45.1パーセントで最も多く，続いて「しない」というのが17.3パーセントであり，「12時間以上」というのは5.2パーセントに過ぎなかった。

つぎに，こうした間接スポーツ参加と政治家不信の割合をみたところ(表4),「しない」(55.8)「12時間以上」(42.9)，「1～3時間」(50.7) であった。

ⅲ組織・団体加入　まず，何らかの組織・団体に加入している割合は，「スポーツ」が最も多く55.2パーセントであった。続いて「文化」が20.3パーセントであり，「加入していない」は21.1パーセントであった（表3）。

つぎに，組織・団体加入と政治家不信の割合をみたところ(表5)，「スポーツ」(53.3)，「文

化」(51.7),「加入していない」(60.0) であった。

ⓘⓥスポーツ組織の形態　まず，スポーツ組織の形態をみたところ（表6),「クラブ」が最も多く（81.8)，続いて「同好会」(11.9),「その都度仲間をつくる」(6.3) であった。

つぎに，スポーツ組織の形態と政治家不信の割合をみたところ,「同好会」に加入しているものが最も不信感が高かった。しかし，加入しているスポーツ組織の形態と政治家にたいする不信感の間には，明確な関係は認められなかった。

以上，スポーツ参加形態と政治家不信について若干の傾向を指摘してきたが，統計的に明確な関係は認められなかった。しかしながら，その傾向のなかで間接にスポーツとあまり関係をもたないもの，また何らかの組織・団体に加入していないものに政治家にたいする不信感が高かったことは注目に値する。それは組織・団体という集団が成員に与える批判よりも背定への働きと，スポーツ集団内での，ともすればみられがちな批判精神の欠如に根ざしているように思われる。このことは，クラブに所属して厳格な規律のなかでスポーツをしているものよりも，同好会に所属しているものの方に不信感が高かったことと付合するものである。

㈥スポーツ・ルールの遵守　スポーツ・ルールの遵守の程度と政治家不信の関係についてみたたところ(表7)，スポーツルルールの遵守に積極的な姿勢をもつもの44.2パーセント，消極的な姿勢をもつもの18.1パーセントであった。そして○前者よりも後者に政治家不信が高い傾向が認められた。

㈡正当な変革手段にたいする態度　まず，正当な変革手段を厳しい条件に設定し，その割合

表3　政治的受容と政治家不信　(%)

	合法的な政党は全て認めるべきある。		政治的信条のことなる人でも，友人として認めることはよいことである。	
	YES n＝63 (7.9)	NO n＝204 (21.7)	YES n＝204 (25.6)	NO n＝84 (10.5)
a	49 (77.8)	17 (9.8)	152 (74.5)	63 (75.0)
b	53 (84.1)	13 (7.6)	151 (74.0)	60 (71.4)
c	44 (69.8)	18 (10.5)	117 (57.4)	51 (60.7)
d	36 (57.1)	23 (13.4)	118 (57.8)	47 (56.0)
e	35 (55.6)	19 (11.1)	113 (55.4)	49 (58.3)
平均	(68.9)	(10.5)	(63.8)	(64.3)

注[1]，注[2]……表7に同じ。

表7　スポーツ・ルールの遵守と政治家不信　(%)

	スポーツをする以上は決ったことは守る。		正しくないような場合でも上からの指示はかならず守る。		不正なプレイはしない。		レフリーがミス・ジャッジした場合でも，抗議してはいけない。		ラフ・プレーや反則に対してもお返しをしてはいけない。	
	YES	NO	YES	NO	YES	NO	YES	NO	YES	NO
a	389 (68.6)	11 (55.0)	56 (59.6)	195 (73.0)	350 (69.0)	35 (60.4)	80 (64.0)	220 (69.8)	315 (67.7)	43 (69.4)
b	375 (66.1)	14 (70.7)	60 (63.8)	188 (70.4)	322 (63.7)	37 (63.7)	77 (61.6)	222 (70.5)	286 (61.5)	50 (80.7)
c	284 (50.1)	10 (50.0)	47 (50.0)	144 (33.9)	244 (48.0)	31 (53.5)	62 (49.6)	168 (53.3)	221 (47.5)	41 (66.1)
d	276 (48.7)	11 (55.0)	42 (44.7)	148 (55.4)	235 (46.4)	28 (48.3)	65 (52.0)	165 (52.4)	216 (46.5)	41 (66.1)
e	251 (44.3)	12 (60.0)	41 (43.6)	132 (49.4)	222 (43.8)	23 (39.7)	54 (43.2)	161 (51.1)	198 (42.6)	36 (58.1)
平均	(55.6)	(48.4)	(52.3)	(60.4)	(54.2)	(53.1)	(44.2)	(59.4)	(53.2)	(68.1)

注[1]……表2に同じ。
注[2]……選択肢のうち「そのとおり」と答えた者のみをYESとし，「そういうことはない」と答えた者のみをNOとした。

をみたところ（表8），「どんな場合でも法則を遵守すべき」とするものは12.9パーセントであり，「悪法と言えども守るべき」とするもの19.4パーセント，「学校の規則は常に守るべき」とするもの19.4パーセント，また，「理性的な判断が保証されないような場合でも，投票はすべき」だとするものは0.6パーセントであった。

つぎに，こうした正当な変革手段をあくまでも求めるもの（13.1）が政治家にたいして抱いている不信の割合は，59.1パーセントであった。しかし，正当な変革手段に消極的な姿勢をもつもの（26,9）の方が若干多く，政治家不信の割合も高い傾向が認められた（66.2）。

㋭政治的受容尺度　まず，政治的に立場の異なる組織や個人をどの程度受け入れるかについてみたところ（表9），「合法的な政党はすべて認めるべきだ」とするものは17.9パーセント，「政治的信条の異なる人でも友人として認めることはよいことだ」とするものは25.5パーセントであった。しかし，これらの項目に「そういうことはない」と答えたものの割合との間に差はなかった。

㋬社会にたいする態度　社会にたいして消極的で不信感を抱いているもの（15.9）の方が，そうでないもの（28.9）に比べて少なかったが，前者の方が（66.8）後者に比べて（58.1）政治

表9　正当な変革手段にたいする態度と政治家不信　（%）

	どんな場合でも法則に従うべきである。		良くない法則でも，変られるまで守らなければならない。		学校の規則は常に守らなければならない。		理性的な判断が保障されないような場合でも投票はすべきである。	
	YES n＝103 (12.9)	NO n＝267 (33.5)	YES n＝155 (19.4)	NO n＝141 (17.7)	YES n＝155 (19.4)	NO n＝154 (17.5)	YES n＝48 (6.0)	NO n＝310 (38.9)
a	75 (72.8)	205 (76.5)	114 (73.6)	102 (72.3)	113 (72.9)	112 (72.7)	34 (70.8)	239 (77.1)
b	57 (65.1)	201 (75.0)	112 (72.3)	98 (69.5)	105 (67.7)	121 (78.6)	33 (68.8)	234 (75.5)
c	53 (51.5)	157 (58.6)	83 (53.6)	88 (62.4)	83 (53.6)	101 (65.6)	27 (56.3)	188 (60.7)
d	48 (46.6)	167 (62.3)	81 (52.3)	81 (57.5)	80 (51.6)	99 (　)	28 (58.3)	193 (62.3)
e	49 (47.6)	149 (55.6)	71 (45.8)	85 (60.3)	74 (47.7)	94 (61.0)	25 (52.1)	173 (55.8)
平均	(56.7)	(65.6)	(59.5)	(64.4)	(58.7)	(68.4)	(61.3)	(66.3)

注[1]，注[2]…表7と同じ。

表10　社会にたいする態度と政治家不信　（%）

	良いことをしても誰も関心をもたない。		自分で自分を守らなければ誰も守ってくれない。		人々は信頼し合っていない。	
	YES n＝82 (10.3)	NO n＝287(36.1)	YES n＝179(22.5)	NO n＝175(22.0)	YES n＝115(15.0)	NO n＝219(28.6)
a	64 (78.1)	210(73.2)	132(73.7)	127(72.6)	85(73.9)	151(69.0)
b	64 (78.1)	197(68.6)	134(74.9)	122(69.7)	88 (76.5)	137(62.6)
c	55 (67.1)	152(53.0)	106(59.2)	98(56.0)	75 (65.2)	109(49.8)
d	53 (64.6)	151(52.6)	108(60.3)	88(50.3)	61 (53.0)	108(49.3)
e	52 (63.4)	133(46.3)	102(57.0)	(50.3)	66 (57.4)	93(42.5)
平均	(70.3)	(58.7)	(65.0)	(60.4)	(65.2)	(54.6)

$P<0.05$
注[1]，注[2]…表7に同じ。

表11　プレイヤーにたいするコーチの態度と政治家不信　(%)

	練習方法についてよく説明する。		食べ物や休養についてよく説明する。		マナーやエチケットにうるさい。		プレーヤーの意見を尊敬する。		服装についてよく指示する。		規則にうるさい。	
	YES n＝204 (25.6)	NO n＝83 (10.4)	YES n＝105 (13.1)	NO n＝279 (34.9)	YES n＝191 (24.0)	NO n＝113 (14.2)	YES n＝103 (12.9)	NO n＝97 (12.2)	YES n＝203 (25.5)	NO n＝171 (21.5)	YES n＝227 (28.7)	NO n＝65 (8.2)
a	134 (65.7)	57 (68.7)	75 (71.4)	206 (73.8)	134 (70.2)	78 (69.0)	71 (68.9)	69 (71.1)	139 (68.5)	132 (71.4)	164 (72.3)	41 (63.1)
b	132 (64.7)	55 (66.3)	70 (66.7)	199 (71.3)	129 (67.5)	79 (69.9)	69 (67.0)	70 (72.2)	137 (67.5)	120 (70.2)	162 (71.4)	44 (67.7)
c	84 (41.2)	48 (57.8)	50 (47.6)	154 (55.2)	88 (46.1)	68 (60.2)	49 (47.6)	60 (61.9)	98 (48.3)	92 (53.8)	107 (47.1)	44 (67.7)
d	93 (45.6)	38 (45.8)	54 (51.4)	152 (54.5)	95 (49.7)	57 (50.4)	50 (48.5)	53 (54.6)	103 (50.7)	91 (53.2)	115 (50.7)	32 (49.2)
e	83 (40.7)	39 (47.0)	54 (51.4)	136 (48.8)	85 (44.5)	59 (52.2)	49 (47.6)	52 (53.6)	94 (46.3)	82 (48.0)	103 (48.4)	37 (56.9)
平均	(51.6)	(57.1)	(57.7)	(60.7)	(55.6)	(60.3)	(55.9)	(62.7)	(56.3)	(59.3)	(57.4)	(60.9)

注[1]，注[2]…表7と同じ。　※を除いて　P＜0.05

表12　コーチのルール遵守とプレイヤーの政治家不信　(%)

	レフリーがミス・ジャッジをした場合，抗議してもよい。		ルールを守り，スポーツマン・シップを備えている。	
	YES n＝308 (38.6)	NO n＝92 (11.5)	YES n＝215 (11.5)	NO n＝61 (7.8)
a	219 (71.1)	63 (68.5)	131 (60.9)	38 (62.3)
b	218 (70.8)	62 (67.4)	133 (61.9)	41 (67.2)
c	157 (51.0)	47 (51.1)	90 (41.9)	38 (62.3)
d	168 (54.6)	46 (50.0)	94 (43.7)	32 (52.5)
e	158 (51.3)	38 (41.3)	92 (42.8)	36 (59.0)
平均	(59.8)	(55.7)	(50.2)	(60.7)

注[1]，注[2]…表7に同じ。　P＜0.05

家不信の割合は高かった（表10）。

㋒プレイヤーにたいするコーチ・監督の態度　コーチ・監督が積極的にプレイヤーに指示を与える割合は，そうでない割合よりも高かった。(（積極的な指示を与える21.6，与えない16.9)。そして，積極的な指示を受けているものの方（55.8）が，そうでないもの（60.2）に比べて政治家不信が低かった。また，日常生活の場での「服装」や「エチケット」，それに「食べ物や休養」について指示を与えられるプレイヤーの政治家不信は，そうでないものよりも低かった（表11)。このことは，顔と顔とをつき合わせたスポーツ集団が，個人に与える影響力を示唆するものである。

㋓コーチ・監督のルール遵守　まず，「レフェリーがミス・ジャッジした場合，コーチは抗議してもよい」とするものは38.6パーセントで，抗議してはいけないとするもの（11.5）よりかなり高かった（表12)。

全体的に，ルール遵守の高いコーチ・監督の指導を受けているもの（51.3）よりも，そうでないもの（58.2）に政治不信が高かった。そして，て，抗議を認めるものの方（59.8）が，そうでないもの（55.7）に比べて政治家不信の割合が若干高かった。

また，「コーチ・監督がルールを守り，スポーツマンシップを兼ね備えている」と答えたものは27.4パーセントであり，備えていないと答えたものが7.8パーセントあった。そして，後者（60.7）は前者（50.2）に比べて政治家不信の割合が高かった。

㋔スポーツ・オリエンティション　まず，他人との関係でスポーツに積極的に取組んでいるものは10.0パーセントに過ぎず，消極的に取組

表13　スポーツ・オリエンティションと政治家不信　(%)

	他の人の練習の世話をする。		他の人のためにスポーツを組織したり，運営したりする。		他の人より運動能力が優れている。		他の人にスポーツをすすめる。		リーダー経験がある。		自発的練習をする。	
	YES n=67 (8.5)	NO n=231 (29.2)	YES n=34 (4.3)	NO n=502 (63.4)	YES n=53 (79.8)	NO n=306 (38.3)	YES n=156 (19.6)	NO n=246 (30.7)	YES n=61 (7.7)	NO n=382 (48.1)	YES n=116 (14.6)	NO n=177 (23.3)
a	51 (76.1)	167 (72.3)	22 (64.7)	350 (69.7) ※	39 (73.6)	210 (68.6)	104 (66.7)	170 (69.1)	47 (77.1)	256 (67.0)	82 (70.7)	113 (63.8)
b	44 (65.7) ※	177 (76.6)	21 (61.8)	329 (65.5)	31 (73.6)	202 (66.0)	99 (63.5)	163 (66.3)	44 (72.1)	245 (64.1)	74 (63.8)	115 (65.0)
c	34 (50.8) ※	127 (55.0)	13 (38.2)	258 (51.4)	31 (58.5)	156 (51.0)	74 (47.4)	135 (54.9)	33 (54.0)	186 (48.7)	61 (52.6)	94 (53.1)
d	32 (47.8)	132 (57.1)	11 (32.4)	266 (53.0)	30 (56.6)	151 (49.4)	78 (50.0)	128 (52.0)	34 (55.7)	187 (49.0)	55 (47.4) ※	93 (52.5)
e	32 (47.8)	116 (50.2)	11 (32.4)	228 (45.4)	27 (50.9)	151 (49.4)	74 (47.4) ※	120 (48.8)	29 (47.5) ※	173 (45.3)	55 (47.4) ※	85 (48.0)
平均	(57.6)	(62.2)	(45.9)	(57.0)	(62.0)	(56.9)	(55.0)	(58.2)	(61.3)	(54.8)	(56.4)	(56.5)

注[1]，注[2]…表7に同じ。　※を除いて　P＜0.05

表14　スポーツ・オリエンティションと政治家不信　(%)

	勝つ見込みのない試合をするのは馬鹿げている。		観客が多いほどプレイに熱中する。		コーチがいる時の方がプレイに熱中する。		スポーツの楽しみは，多くの人から賞讃されることだ。		スポーツをする時，ぶかっこうな姿を人に見られたくない。		スポーツは楽しめばよい。		スポーツで大事なことは壮快な気分になることだ。		納得のいくプレイができれば勝敗は重要でない。	
	YES n=41 (5.1)	NO n=564 (70.8)	YES n=138 (17.3)	NO n=253 (31.7)	YES n=109 (13.7)	NO n=252 (31.7)	YES n=129 (16.2)	NO n=292 (36.6)	YES n=155 (19.5)	NO n=194 (24.9)	YES n=497 (62.4)	NO n=27 (3.4)	YES n=351 (44.0)	NO n=63 (7.9)	YES n=339 (42.5)	NO n=105 (13.2)
a	26 (63.4) ※	385 (68.3)	34 (60.9)	183 (72.3)	65 (59.6)	173 (68.7)	79 (61.2)	201 (68.8)	107 (69.0)	138 (69.7)	350 (70.4)	16 (59.3)	246 (70.1) ※	41 (65.1)	240 (70.8)	66 (62.9)
b	26 (63.4) ※	363 (64.4)	81 (58.7)	174 (68.8)	66 (60.0)	165 (65.5)	77 (59.7)	190 (65.1)	110 (71.0)	132 (66.7)	326 (65.5) ※	18 (66.7)	246 (70.1)	37 (58.7)	230 (67.9)	67 (63.8)
c	23 (56.1) ※	273 (48.4)	70 (60.7)	133 (52.6)	47 (43.1)	140 (55.6)	69 (53.5)	140 (48.0)	89 (56.8)	95 (48.0)	257 (51.7)	13 (48.2)	200 (57.0)	32 (50.8)	168 (49.6)	55 (52.4)
d	25 (61.0)	259 (45.9)	70 (50.7)	142 (56.1)	49 (45.0)	141 (56.0)	68 (52.7)	143 (49.0)	90 (58.1)	105 (53.0)	243 (48.9)	16 (59.3)	188 (53.6) ※	30 (47.6)	162 (47.8)	61 (58.1)
e	24 (58.5)	244 (43.3)	62 (44.9)	121 (47.8)	42 (38.5)	137 (54.4)	60 (46.5)	140 (48.0)	81 (52.3)	94 (47.5)	226 (45.5)	16 (59.3)	183 (52.1)	32 (50.8)	157 (46.3) ※	55 (52.4)
計	(60.5)	(54.1)	(53.2)	(59.5)	(49.4)	(60.0)	(54.7)	(55.8)	(61.4)	(57.0)	(56.4)	(58.6)	(60.6)	(54.6)	(56.5)	(57.9)

注[1]，注[2]…表7に同じ。　※を除いて　P＜0.05

んでいるものは42.9パーセントと高く，政治家不信も高い傾向がみられた（表13）。

つぎに，自分との関係でみたところ，「他の人よりも運動能力が優れている」と答えたものに政治家不信の割合が高い傾向がみられた。また，「自発的練習をする」か否かでは，政治家不信は変わらなかった。

㋜スポーツ・モチベイション　まず，他人との関係がスポーツにやる気をおこす大きな要因であるとする割合は14.4パーセントであり，そうでないもののそれは39.1パーセントであった。また，自分との関係でスポーツを捉えている割合は49.6パーセントであり，そうでないもののそれは8.2パーセントであった（表14）。これらの結果は，スポーツに取組む姿勢が基本的には自分との関係に基づいていることを示唆している。

つぎに，スポーツ・モチベイションの内容の相違と政治家不信の間には，ほとんど関係がみられなかった（表14）。

(2) 政治的受容尺度

㋑所属別　政治的受容尺度として2つの項目を採用した。1つは「合法的な政党はすべて認めるべきだと思いますか」(表15—㋑) というものであり，2つは「政治的信条（意見）の異なる人でも友人として認めることはよいことだと思いますか」(表15—㋺) というものである。

まず，㋑について全体的に言えることは肯定的よりも否定的な答えの方が多かったことである(肯定的17.9，否定的37.3，D・K．44.8)。また，肯定的意見を性別にみると男性の方が高かった(男性21.9，女性13.8)。また，大学生と高校生では大学生に高かった（大学生21.1，高校生14.6)。そして，スポーツによく接しているものは16.9パーセントであり，そうでないものは18.8パーセントであった。とくに，スポーツにあまり接していないものの方が肯定的意見が高かったが，とくに，大学の男性はそうであった。

つぎに，㋺について全体的に言えることは肯定的な意見がかなり高かったということである（肯定的25.5，否定的11.2，D・K．26.8)。また，肯定的意見を性別にみるとほとんど差は認められなかった（男性25.7，女性25.3）また，大学生と高校生では大学生に高かった（大学生29.3，高校生21.7)。そして，スポーツによく接しているものは24.8パーセントであり，そうでないものは26.2パーセントであった。そして，

表15　政治的受容尺度

㋑　合法的な政党はすべて認めるべきだと思いますか。

(%)

			そのとおり	まあそうだ	やや違う	そういうことはない	わからない	計
大学	体育学部	男	8 (8.1)	7 (7.1)	26 (26.3)	33 (33.3)	25 (25.3)	99
		女	8 (8.1)	14 (14.1)	25 (25.3)	14 (14.1)	38 (38.4)	99
	非体育学部	男	14 (14.0)	19 (19.0)	21 (21.0)	21 (21.0)	25 (25.0)	100
		女	6 (6.0)	8 (8.0)	12 (12.0)	21 (21.0)	53 (53.0)	100
高校	体育系クラブ	男	10 (10.1)	11 (11.1)	12 (12.1)	27 (27.3)	39 (39.4)	99
		女	4 (4.0)	5 (5.1)	6 (6.1)	13 (13.1)	71 (71.7)	99
	非体育系クラブ	男	9 (9.1)	9 (9.1)	16 (16.2)	31 (31.3)	34 (34.3)	99
		女	4 (4.0)	6 (6.0)	7 (7.0)	12 (12.0)	71 (71.0)	100
計			63	79	125	172	356	795

$P<0.05$

㋺　政治的信条(意見)の異なる人でも友人として認めることは良いことだと思いますか。

(%)

			そのとおり	まあそうだ	やや違う	そういうことはない	わからない	計
大学	体育学部	男	24 (24.0)	25 (25.0)	19 (19.0)	9 (9.0)	23 (23.0)	100
		女	28 (28.0)	32 (32.0)	17 (17.0)	9 (9.0)	14 (14.0)	100
	非体育学部	男	33 (33.0)	33 (33.0)	12 (12.0)	8 (8.0)	14 (14.0)	100
		女	28 (28.0)	31 (31.0)	15 (15.0)	5 (5.0)	21 (21.0)	100
高校	体育系クラブ	男	32 (32.0)	20 (20.0)	9 (9.0)	15 (15.0)	24 (24.0)	100
		女	14 (14.0)	23 (23.0)	5 (5.0)	14 (14.0)	44 (44.0)	100
	非体育系クラブ	男	24 (24.2)	14 (14.1)	13 (13.1)	13 (13.0)	35 (35.4)	90
		女	22 (22.0)	24 (24.0)	4 (4.0)	11 (11.0)	39 (39.0)	100
計			205	202	94	84	214	

$P<0.05$

スポーツにあまり接していないものの方が肯定的意見が高かったが，ここでもとくに大学の男性がそうであった。

これらの分析結果から，政治的受容尺度はそれほど高いとは言えなかったが，いくつかの特徴を抽出することが可能である。それは肯定的意見をもっているものは高校生よりも大学生に多く，またスポーツによく接しているものよりもそれほど接していないものの方に高く，やや男性に高かったということである。これらの結果は，政治的社会化の成熟度を示す一つの指標であると考えられる。

㋺スポーツ参加形態

表16　直接スポーツ参加と政治的受容尺度

N＝786　(%)

	しない n＝204(26.0)	12時間以上 n＝131(16.7)	1～3時間 n＝308(37.2)
a※	15 (7.4)	12 (9.2)	24 (7.8)
b	49 (24.0)	37 (28.2)	73 (23.7)
平均	(15.7)	(18.7)	(15.8)

※を除いて　P＜0.05

注[1]……a…合法的な政党は全て認める
b…政治的信条(意見)の異なる人でも友人として認める。

㋑直接スポーツ参加　直接スポーツ参加と政治的受容尺度の割合は，「しない」(15.7)，「12時間以上」(18.7)，「1～3時間」(15.8) であった (16)。

㋺間接スポーツ参加　間接スポーツ参加と政治的受容尺度の割合は，「しない」(16.0)，「12時間以上」(17.1)，「1～3時間」(16.2) であった (表17)。

表17　間接スポーツ参加と政治的受容尺度

N＝796　(%)

	しない n＝138(17.3)	12時間以上 n＝41(5.2)	1～3時間 n＝359(45.1)
a※	8 (5.8)	2 (4.9)	31 (8.6)
b	36 (26.1)	12 (29.3)	85 (23.7)
平均	(16.0)	(17.1)	(16.2)

※を除いて　P＜0.05

注[1]…表16に同じ。

㋩スポーツ・ルールの遵守　スポーツ・ルールの遵守と政治的受容尺度についてみたところ (表18)，「遵守する」もの (18.7)の方が，「遵守しない」と答えたもの (27.4) よりも政治的受容尺度は低かった。

㋥プレイヤーにたいするコーチ・監督の態度

プレイヤーにたいするコーチ・監督の態度と政治的受容尺度についてみたところ(表19)，プレイヤーにたいしてより積極的に働きかける場合の方 (27.9) が，そうでない場合 (17.5) より高い政治的受容がみられた。

㋭コーチ・監督のルール遵守　コーチ・監督のルール遵守と政治的受容尺度についてみたところ(表20)，ルール遵守の割合が高い場合の方 (23.5) が，そうでない場合 (19.5) より高い政治的受容がみられた。

㋬スポーツ・オリエンティション・スポーツオリエンティションと政治的受容尺度をみたところ(表21)，スポーツに積極的に取組んでいるものの方 (27.5) が，そうでないもの (16.8) に比べて，高い政治的受容を示した。この傾向は，他の人との関係でスポーツに積極的に取組んでいるものについても，また自分との関係でスポーツに積極的に取組んでいるものについても認められた。

㋣スポーツ・モチベイション　スポーツ・モチベイションと政治的受容尺度についてみたところ(表22)，スポーツによって政治的受容尺度がそれほど異ならないことがわかった。しかし，自分との関係でスポーツにやる気をもっているもの (22.4) の方が，そうでないもの (18.9) に比べて政治的受容尺度が高かった。しかし，この点を他の人との関係でみた場合の政治的受容尺度はほぼ同じであった。

表18　スポーツ・ルールの遵守と政治的受容尺度

N＝797　(%)

	スポーツをする以上，決ったことは守る。		正しくないような場合でも上からの指示は必らず守る。		不正なプレイは絶体にしない。		レフェリーがミス・ジャッジをした場合でも抗議してはいけない。		ラフ・プレイが反則に対してもお返しをしてはいけない。	
	YES n＝567 (71.1)	NO n＝19 (2.4)	YES n＝94 (11.8)	NO n＝268 (33.6)	YES n＝50 5 (63.2)	NO n＝57 (7.2)	YES n＝125 (15.7)	NO n＝316 (39.6)	YES n＝465 (53.5)	NO n＝63 (7.9)
a	50(8.8)	5 (26.3)	22 (23.4)	25 (9.3)	38 (7.5)	12 (21.2)	18 (14.4)	32 (10.1)	29(6.2)	17 (27.0)
b	167(29.5)	5 (26.3)	33 (35.1)	77 (28.7)	53 (10.5)	27 (47.4)	32 (25.6)	105(33.2)	119(25.6)	28 (44.4)
平均	(19.2)	(26.3)	(29.3)	(19.0)	(9.0)	(34.3)	(20.2)	(21.7)	(15.9)	(35.7)

注[1]…表16に同じ。　P＜0.05

表19　プレイヤーにたいするコーチの態度と政治的受容尺度

	練習方法についてよく説明する。		食べ物や休養についてよく説明する。		マナ(エチケット)にうるさい。		プレイヤーの意見を尊重する。		服装についてよく指示する。		規則にうるさい。	
	YES n＝204 (25.6)	NO n＝83 (10.4)	YES n＝105 (13.1)	NO n＝279 (34.9)	YES n＝191 (24.0)	NO n＝113 (14.2)	YES n＝103 (12.9)	NO n＝171 (12.2)	YES n＝203 (25.5)	NO n＝171 (21.5)	YES n＝227 (28.7)	NO n＝65 (8.2)
a	30(14.7)	8 (3.6)	18(17.1)	21(7.5)	28(14.7)	11(9.7)	24(23.3)	12(12.4)	22(10.8)	14(8.2)	27(11.9)	8 (12.3)
b	80(39.2)	17(20.5)	45(42.9)	81(29.0)	79(41.4)	27(23.9)	43(41.8)	28(28.9)	76(37.4)	49(28.7)	89(39.2)	12(18.5)
平均	(27.0)	(15.1)	(30.0)	(18.3)	(28.1)	(16.8)	(32.6)	(20.7)	(24.1)	(18.5)	(25.6)	(15.4)

注[1]…表16に同じ。　P＜0.05

表20　コーチのルール遵守と政治的受容尺度

(%)

	レフェリーがミス・ジャッジをした場合，抗議をしてもよい。		ルールを守り，スポーツマン・シップを備えている。	
	YES　n＝308(38.6)	NO　n＝92(11.5)	YES　n＝215(274)	NO　n＝61(7.8)
a	33　(10.7)	15 (16.3)	31 (14.4)	5 (8.2)
b	104　(33.8)	31 (33.7)	75 (34.9)	12 (19.7)
平均	(22.3)	(25.0)	(24.7)	(14.0)

注[1]…表16に同じ。　P＜0.05

表21　スポーツ・オリエンティションと政治的受容尺度

(%)

	他の人の練習の世話をする。		他の人のためにスポーツを組織したり運営したりする。		他の人よりも運動能力が優れている。		他の人にスポーツをすすめる。		リーダー経験がある。		自発的練習をする。	
	YES n＝67 (8.5)	NO n＝231 (29.2)	YES n＝34 (4.3)	NO n＝502 (63.4)	YES n＝53 (79.8)	NO n＝306 (38.3)	YES n＝156 (19.6)	NO n＝246 (30.9)	YES n＝61 (7.7)	NO n＝382 (48.1)	YES n＝116 (14.6)	NO n＝177 (22.3)
a	9 (13.4)	16(6.9)	8 (23.5)	33(6.6)	12(23.6)	23(7.5)	14(12.2)	20(8.1)	11(18.0)	23(6.0)	13(11.2)	15(8.5)
b	24(35.8)	66(28.6)	9 (26.5)	139(27.7)	24(45.3)	85(27.8)	60(33.5)	64(26.0)	29(47.5)	89(23.3)	41(35.3)	42(23.7)
平均	(24.6)	(17.8)	(25.0)	(17.2)	(34.0)	(17.7)	(25.4)	(17.1)	(32.8)	(14.7)	(23.3)	(16.1)

注[1]…表16に同じ。　P＜0.05

表22　スポーツ・モチベイションと政治的受容尺度

(%)

	勝つ見込みのない試合馬鹿げている。		観客が多いほどプレイに熱中する。		コーチがいる時のほうがプレイに熱中する。		スポーツの楽しみは，多くの人から賞讃されることだ。		スポーツをする時ぶかっこうな姿を人に見られたくない。		スポーツは楽しめばよい。		スポーツで大事なことは壮快な気分になることだ。		納得のいくプレイができれば勝敗は重要でない。	
	YES n＝41 (5.2)	NO n＝564 (70.8)	YES n＝138 (17.3)	NO n＝253 (31.7)	YES n＝109 (13.7)	NO n＝252 (31.7)	YES n＝129 (16.2)	NO n＝292 (36.6)	YES n＝155 (19.5)	NO n＝198 (24.9)	YES n＝497 (62.4)	NO n＝27 (3.4)	YES n＝351 (44.0)	NO n＝63 (7.9)	YES n＝339 (42.5)	NO n＝105 (13.2)
a	8 (19.5)	42 (7.5)	18 (13.0)	16 (6 3)	11 (10.1)	21 (8.3)	11 (8.5)	26 (8.9)	20 (12.9)	20 (10.1)	47 (9.5)	3 (14.3)	49 (14.0)	4 (6.4)	38 (11.2)	9 (8.6)
b	13 (31.7)	156 (27.7)	44 (31.9)	67 (26.5)	35 (32.1)	74 (24.4)	37 (28.7)	91 (31.2)	50 (32.3)	56 (28.3)	151 (30.4)	8 (29.6)	121 (34.5)	18 (28.6)	117 (34.5)	27 (25.7)
平均	(25.6)	(17.6)	(22.5)	(16.4)	(21.1)	(37.7)	(18.6)	(20.1)	(22.6)	(19.2)	(20.0)	(22.0)	(24.3)	(17.5)	(22.9)	(17.2)

注[1]…表16に同じ。　P＜0.05

表23　変革手段にたいする態度の百分率

	大学				高校				計
	体育学部		非体育学部		体育系クラブ所属		体育系クラブ非所属		
	男	女	男	女	男	女	男	女	
a	(11.0)	(16.0)	(5.0)	(7.0)	(17.0)	(13.0)	(13.0)	(11.1)	103(12.9)
b	(16.0)	(22.0)	(24.0)	(11.0)	(27.0)	(19.0)	(21.0)	(16.0)	156(19.5)
c	(21.0)	(19.0)	(18.0)	(6.0)	(33.0)	(20.0)	(19.2)	(19.2)	155(19.4)
d	(6.0)	(11.0)	(12.1)	(4.0)	(16.0)	(3.0)	(12.0)	(2.0)	66(8.3)
e	(3.0)	(8.0)	(5.0)	(3.0)	(11.0)	(5.0)	(11.0)	(2.0)	48(6.0)
平均	(11 4)	(15.2)	(14.8)	(6.2)	(20.8)	(12.0)	(15.2)	(10.1)	(12.0)

$P<0.05$

注[1]……a…どんな場合でも法律に従わなければならない。
b…良くない法律でも変えられるまでは守らなければならない。
c…学校の規則は常に守らなければならない。
d…一部の人々に有利にできているような法律でも守らなければならない。
e…理性的な判断が保証されないような場合でも，投票はすべきである。
注[2]……「そのとおり」，「まあそうだ」，「やや違う」，「そういうことはない」，「わからない」の五つの選択肢のうち，「そのとおり」と答えた者のみ抽出。

(3)　正当な変革手段にたいする態度

㋑所属別　所属別に正当な変革手段にたいする態度をみたところ(表23)，男性（15.6）の方が女性（10.9）よりも，高校生（14.5）の方が大学生（11.9）よりも，正当な変革手段を守るべきだとする姿勢が強かった。とくに，この姿勢は高校の男性（18.0）に高かった。

また，スポーツにより親しんでいるものの方（14.9）が，そうでないもの（11.6）よりも正当な変革手段を遵守する姿勢が強かった。とくに，高校の体育クラブ所属生徒（16.4）にこの傾向が強く認められた。

㋺スポーツ参加形態

ⅰ直接スポーツ参加　直接スポーツ参加と正当な変革手段にたいする態度についてみたところ(表24)，1週間に「12時間以上」スポーツをややっているものが正当な変革手段をとるべきだとの態度をかなり強く表明した(17.5)。そして「しない」と「1～3時間」は同じ割合であった(12.1)。しかし，こちらの数値の間には有意性は認められなかった。

ⅱ間接スポーツ参加　間接スポーツ参加と正当な変革手段にたいする態度についてみたところ（表25)，「しない」ものが正当な変革手段をとるべきだとの態度をかなり強く表明した(15.2)。そして，間接スポーツ参加の度合は正当な変革手段への態度をそれほど決定する要因ではないことが示唆された。

表24　直接スポーツ参加と正当な変革手段にたいする態度　(%)

	しない n＝203	12時間以上 n＝131	1～3時間 n＝309
a	28 (13.8)	20 (15.2)	33 (10.7)
b	38 (18.7)	34 (26.0)	59 (19.1)
c	32 (15.8)	32 (24.4)	58 (18.8)
d	15 (7.4)	18 (13.7)	20 (6.5)
e	10 (4.9)	11 (8.4)	17 (5.5)
平均	(12.1)	(17.5)	(12.1)

注[1]，注[2]…表23に同じ。　$P<0.05$

表25　間接スポーツ参加と正当な変革手段にたいする態度

	しない n＝138	12時間以上 n＝41	1～3時間 n＝358
a	20 (14.5)	6 (14.6)	50 (14.0)
b	28 (20.3)	11 (26.8)	73 (20.4)
c	31 (22.5)	7 (17.1)	76 (21.2)
d	16 (11.6)	2 (4.9)	27 (7.5)
e	10 (7.3)	1 (2.4)	21 (5.9)
平均	(15.2)	(13.2)	(13.8)

注[1]，注[2]…表23に同じ。　※を除いて$P<0.05$

㈢競技出場の有無　競技出場の有無と正当な変革手段にたいする態度をみたところ（表26），競技出場経験をもつもの（14.5）の方が，もたないもの（13.6）よりも正当な変革手段をとるべきだとの姿勢をもつ傾向が認められた。とくに，「学校内対抗」競技に出場したことのあるものが，この姿勢を最も強く示唆した。

㈥スポーツ・ルールの遵守

スポーツ・ルールの遵守と正当な変革手段にたいする態度についてみたところ(表27)，スポーツ・ルールの遵守程度の高いもの(17.7)，そうでないもの（20.1）よりも正当な変革手段をとるとは答えなかった。

表26　競技出場の有無と正当な変革にたいする態度　（%）

	学校内対抗		対校		地区対抗		全国大会	
	ない n＝278	ある n＝501	ない n＝348	ある n＝425	ない n＝421	ある n＝369	ない n＝694	ある n＝98
a	41（14.8）	61（12.2）	46（13.2）	55（13.0）	53（12.6）	49（13.3）	91（13.1）	12（12.2）
b	52（18.7）	101(20.2)	66（19.0）	85（20.0）	82（19.5）	71（19.2）	132(19.2)	22（22.5）
c	53（19.1）	98（19.6）	65（18.7）	85（20.0）	76（18.1）	76（20.6）	134(19.3)	12（12.2）
d	31（11.2）	33（6.6）	33（9.5）	31（7.3）	37（8.8）	28（7.6）	55（7.9）	11（11.2）
e	21（7.6）	26（5.2）	25（7.2）	21（4.9）	32（7.6）	16（4.3）	43（6.2）	5（5.1）
平均	（14.3）	（19.2）	（13.5）	（13.0）	（13.3）	（13.0）	（13.1）	（12.6）

注[1]，注[2]…表23に同じ　※を除いてP＜0.05

表27　スポーツ・ルール遵守と正当な変革手段にたいする態度　N＝796　（%）

	スポーツをする以上決ったことは守る。		正しくないような場合でも上からの指示は守る。		不正なプレイは絶対しないげ　。		レフェリーがミス・ジャッジをしたような場合でも抗議してはいけない。		ラフ・プレイや反則にたいしてもお返しをしてはいけない。	
	YES n＝566 (70.9)	NO (2.5) n＝20	YES n＝94 (11.8)	NO n＝268 (33.6)	YES n＝506 (63.6)	NO n＝58 (9.3)	YES n＝125 (15.7)	NO n＝315 (39.5)	YES n＝464 (58.1)	NO n＝63 (7.9)
a	92(16.3)	2（10.0）	28（29.8）	40（14.9）	69（13.6）	14（24.1）	27（21.6）	46（14.6）	64（13.8）	12（7.9）
b	134(23.7)	4（20.0）	30（31.9）	52（19.4）	93（18.4）	23（39.7）	33（26.4）	73（23.2）	97(20.9)	19（19.1）
c	133(23.5)	3（15.0）	33（35.1）	47（17.5）	105(20.8)	18（31.0）	32（25.6）	79（25.1）	101(21.8)	15（23.8）
d	52(9.2)	4（20.0）	18（19.2）	31（11.6）	43(8.5)	12（20.7）	16（12.8）	33（10.5）	40(8.6)	10（15.9）
e	35（6.2）	4（20.0）	10（10.6）	18（6.7）	27(5.3)	9（15.5）	16（12.8）	23（7.3）	30(6.5)	30（47.6）
平均	（15.8）	（17.0）	（25.3）	（14.0）	（13.3）	（26.2）	（19.8）	（16.1）	（14.3）	（27.3）

注[1]，注[2]…表23に同じ。　注[3]…表7の注[2]に同じ。　※を除いてP＜0.05

㈢プレイヤーにたいするコーチ・監督の態度

プレイヤーにたいするコーチ・監督の態度とプレイヤーの正当な変革手段にたいする態度についてみたところ(表28)，プレイヤーに積極的に働きかける場合（23.3）が，そうでない場合（12.8）よりも正当な変革手段を高く証価していることがわかった。

㈩コーチ・監督のルール遵守　コーチ・監督のルール遵守の度合いとプレイヤーの正当な変革手段にたいする態度についてみたところ(表29)，ルール遵守の高いコーチの下にあるもの(19.5)の方が，そうでないもの（15.6）よりも正当な変革手段を高く評価していることがわかった。

表28　プレイヤーにたいするコーチ・監督の態度と正当な変革にたいする態度　N＝799（%）

	練習方法についてよく説明する		食べ物・休養についてよく説明する		マナー（エチケット）についてうるさい		プレイヤーの意見を尊重する		服装についてよく指示する		規則にうるさい	
	YES n＝205 (25.96)	NO n＝83 (10.4)	YES n＝105 (13.1)	NO n＝279 (34.9)	YES n＝191 (23.9)	NO n＝113 (14.1)	YES n＝103 (12.9)	NO n＝97 (12.1)	YES n＝203 (25.4)	NO n＝171 (21.4)	YES n＝227 (28.4)	NO n＝65 (8.1)
a	46 (22.4)	12 (14.5)	24 (22.9)	34 (12.2)	40 (20.9)	12 (10.6)	23 (10.6)	17 (22.3)	38 (17.5)	25 (14.6)	48 (21.2)	7 (10.8)
b	60 (29.3)	19 (22.9)	36 (34.3)	55 (19.7)	62 (32.5)	19 (16.8)	32 (31.1)	21 (21.7)	56 (27.6)	31 (18.1)	68 (30.0)	8 (12.3)
c	67 (32.7)	17 (20.5)	36 (34.3)	52 (18.6)	70 (36.7)	19 (16.8)	36 (35.0)	17 (17.5)	57 (28.1)	27 (15.8)	73 (32.2)	10 (15.4)
d	33 (15.1)	8 (9.6)	19 (18.1)	23 (8.2)	32 (16.8)	8 (7.1)	23 (22.3)	8 (8.3)	26 (12.8)	11 (6.4)	29 (12.8)	5 (7.7)
e	18 (8.8)	6 (7.2)	10 (9.5)	18 (6.5)	21 (11.0)	7 (6.2)	11 (10.7)	6 (6.2)	15 (7.4)	11 (6.4)	24 (10.6)	6 (9.2)
平均	(21.9)	(14.9)	(23.8)	(13.0)	(23.6)	(11.5)	(24.3)	(14.2)	(18.9)	(12.3)	(21.4)	(11.1)

注[1]，注[2]，注[3]…表27に同じ。　$P<0.05$

表29　コーチ・監督のルール遵守と正当な変革手段にたいする態度　N＝786（%）

	レフェリーがミス・ジャッジした場合，抗議してもよい		ルールを守り，スポーツマンシップを身につけている	
	YES n＝309 (39.3)	NO n＝92 (11.7)	YES n＝215 (27.4)	NO n＝61 (7.8)
a	45 (14.6)	24 (26.1)	45 (20.9)	6 (9.8)
b	82 (26.5)	29 (31.5)	62 (28.8)	8 (13.1)
c	78 (25.2)	25 (27.2)	71 (33.0)	7 (11.5)
d	32 (10.4)	14 (15.2)	35 (16.3)	4 (6.6)
e	25 (8.1)	8 (8.7)	24 (11.2)	4 (6.6)
平均	(17.0)	(21.7)	(22.0)	(9.5)

注[1]，注[2]，注[3]…表27に同じ。　$P<0.05$

㈩スポーツ・オリエンティション　スポーツ・オリエンティションと正当な変革手段にたいする態度についてみたところ(表30)，スポーツに積極的な姿勢をもっているもの（26.3）の方が，そうでないもの（12.2）よりも正当な変革手段を高く評価していることがわかった。また，他の人との関係でスポーツに積極的な姿勢をもっているもの（20.4）よりも，自分との関係でスポーツに積極的な姿勢をもっているもの(32.2)の方が，正当な変革手段を高く評価していることがわかった。

表30　スポーツ・オリエンティションと正当な変革手段にたいする態度　N＝798（%）

	他の人の練習の世話をする		他の人のためにスポーツを組織したり運営したりする		他の人よりも運動能力がある		他の人にスポーツをすすめる		リーダー経験がある		自発的練習をする	
	YES n＝67 (8.4)	NO n＝231 (28 9)	YES n＝34 (4.3)	NO n＝501 (62.8)	YES n＝54 (6.8)	NO n＝306 (38.3)	YES n＝156 (19.5)	NO n＝246 (30.8)	YES n＝62 (7.8)	NO n＝382 (47.9)	YES n＝117 (14.7)	NO n＝178 (22.3)
a	13 (19.4)	33 (14.3)	7 (20.6)	67 (13.4)	9 (16.7)	41 (13.4)	32 (20.5)	36 (14.6)	15 (24.2)	47 (12.3)	20 (17.1)	22 (12.4)
b	18 (26.9)	43 (18.6)	8 (23.5)	97 (19.4)	18 (33.3)	56 (18.3)	43 (27.6)	47 (19.1)	23 (37.1)	17 (4.6)	28 (24.0)	30 (16.9)
c	20 (29.9)	44 (19.1)	9 (26.5)	93 (18.6)	19 (35.2)	53 (17.3)	42 (26.9)	44 (17.9)	18 (29.0)	74 (19.4)	31 (26.5)	28 (15.7)
d	9 (13.4)	14 (6.1)	5 (14.7)	39 (7.8)	10 (18.5)	20 (6.5)	22 (14.1)	21 (8.5)	12 (19.4)	24 (6.3)	14 (12.0)	16 (9.0)
e	4 (6.0)	15 (6.5)	3 (8.8)	32 (6.4)	8 (14.8)	15 (4.9)	11 (7.1)	19 (7.7)	8 (12.9)	22 (5.8)	6 (5.1)	11 (6.2)
平均	(19.1)	(12.9)	(18.8)	(13.1)	(23.7)	(12.1)	(19.2)	(13.6)	(24.5)	(9.7)	(16.9)	(12.0)

注[1]，注[2]，注[3]…表27に同じ　※を除いて　$P<0.05$

㋣スポーツ・モチベイション　スポーツ・モチベイションと正当な変革手段にたいする態度についてみたところ(表31)，スポーツをやる動機が他人との関係で強く影響を受けるもの(17.3)の方が，そうでないもの（16.4）に比べて正当な変革手段を若干高く評価していた。

表31　スポーツ・モチベイションと正当な変革手段にたいする態度　N＝798　(%)

	勝つ見込みのない試合をするのは馬鹿げている		観客が多いほどプレイに熱中する		コーチがいる時の方がプレイに熱中する		スポーツの楽しみは，多くの人から賞讃されることだ		スポーツをする時ぶかっこうな姿を人に見られたくない		スポーツは楽しめばよい		スポーツで大切なことは壮快な気分になることだ		納得のいくプレイができれば勝敗は重要ではない	
	YES n＝41	NO n＝565	YES n＝139	NO n＝254	YES n＝109	NO n＝253	YES n＝129	NO n＝292	YES n＝155	NO n＝199	YES n＝497	NO n＝27	YES n＝351	NO n＝53	YES n＝340	NO n＝105
a	7 (17)	75 (13.3)	23 (16.6)	35 (13.8)	23 (21.1)	40 (15.8)	16 (12.4)	50 (17.1)	28 (18.1)	27 (13.6)	78 (15.7)	5 (18.5)	64 (19.1)	12 (19.1)	57 (16.8)	21 (20.0)
b	10 (24.4)	115 (20.4)	36 (26.0)	52 (20.5)	24 (22.0)	56 (22.1)	26 (20.2)	70 (24.0)	43 (27.7)	45 (22.6)	103 (20.7)	9 (33.3)	92 (26.2)	16 (25.4)	83 (24.4)	23 (21.9)
c	11 (26.8)	115 (20.4)	37 (26.6)	57 (22.4)	30 (27.5)	48 (19.0)	33 (25.6)	58 (19.9)	37 (23.9)	46 (23.1)	109 (21.9)	6 (22.2)	91 (25.9)	15 (23.8)	80 (23.5)	29 (27.6)
d	6 (14.6)	53 (9.4)	17 (12.2)	20 (7.9)	11 (10.1)	24 (9.5)	11 (8.5)	32 (11.0)	15 (9.7)	20 (10.1)	45 (9.1)	5 (18.5)	39 (11.1)	8 (12.7)	34 (10.0)	17 (16.2)
e	2 (4.9)	35 (6.2)	12 (8.6)	15 (5.9)	10 (9.2)	15 (5.9)	10 (7.8)	19 (6.5)	18 (11.6)	10 (5.0)	35 (7.0)	3 (11.1)	27 (7.7)	3 (4.8)	27 (7.9)	8 (7.6)
平均	(17.6)	(13.9)	(18.0)	(14.1)	(18.0)	(14.5)	(14.9)	(15.7)	(18.2)	(14.9)	(14.9)	(20.7)	(17.8)	(17.2)	(16.5)	(18.7)

注[1]，注[2]，注[3]…表27に同じ。　※を除いて　P＜0.05

表32　調査結果の概要

	項目	特性		
志向 スポーツ	①競技大会出場経験	体育学部学生，体育系クラブ所属高校生＜非体育学部学生，体育系クラブ非所属高校生		
	②スポーツに対する一般的な態度	体育学部学生，体育系クラブ所属高校生＞非体育学部学生，体育系クラブ非所属高校生		
スポーツ規範・価値	①ルール遵守	高校生＞，女性＞男性		
	②コーチ・監督のルール遵守	大学生＞高校生，女性＞男性		
	③コーチ・監督のプレイヤーにたいする態度	大学生＞高校生，男性＞女性		
	④学校内での勝つことの評価	大学生＞高校生，女性＞男性		
スポーツ・モチベイション	①スポーツ参加の動機 ㋑自分との関係 ㋺他人との関係	高校生＞大学生 大学生＞高校生，男性＞女性		
		政治家にたいする不信感	政治的受容	正当な変革手段をとるべきだとする態度
政治的社会化	①所属別	非体育学部学生＞体育学部学生 大学生＞高校生，男性＞女性， 都市＞地方	体育学部学生＞非体育学部学生 大学生＞高校生，男性＞女性	体育学部学生＞非体育学部学生 高校生＞大学生，男性＞女性
	②スポーツ参加形態 ㋑直接スポーツ参加 ㋺間接スポーツ参加 ㋩組織・団体加入 ㋥スポーツ組織の形態	″しない″＞″(よく)する)″ ″しない″＞″する″ ″未加入＞″加入″ ″同好会″＞″クラブ″″その都度集まる″	″よくする″＞″(あまり)しない″ ″よくする″＞(あまり)しない″	″よくする″＞″(あまり)しない″ ″しない″＞(よく)する″
	③スポーツ・ルールの遵守	積極的姿勢＞消極的姿勢	積極的姿勢＞消極的姿勢	積極的姿勢＞消極的姿勢
	④正当な変革手段にたいする態度	消極的姿勢＞積極的姿勢		
	⑤政治的受容尺度	寛容的姿勢＞非寛容的姿勢		
	⑥社会にたいする態度	不信感大＞不信感小		
	⑦プレイヤーにたいするコーチ・監督の態度	積極的姿勢＞消極的姿勢	積極的姿勢＞消極的姿勢	積極的姿勢＞消極的姿勢
	⑧コーチ・監督のルール遵守	高い場合＞低い場合	高い場合＞低い場合	高い場合＞低い場合
	⑨スポーツ・オリエンテイション	積極的姿勢＞消極的姿勢	積極的姿勢＞消極的姿勢	
	⑩スポーツ・モチベイション			積極的姿勢＞消極的姿勢

Ⅳ. 結　語

以上，スポーツと政治的社会化について調査結果をもとに分析・考察した。調査データの分析は，一見統一性がなく跛行的色彩を強めていた。しかし，全体的な観点から整理し直してみると，〝スポーツと政治的社会化〟に関してかなり明確な2つの点を指摘することが可能である。

まず，〝スポーツと政治的社会化〟に関して指摘されなければならない第1点は，スポーツと政治的社会化の間に強い関係は認められなかったことである。そして，スポーツが政治的社会化の重要なエージェントであるという証拠は，認められなかったのである。それ以上に，強いて言えばスポーツは政治的社会化を遅らせる一つのエージェントであると言えるだろう。それは次の4点に基づいている。

㋑スポーツにより多く親しんでいるものの方が，そうでないものよりも「政治家にたいする不信感」が低く，「政治的受容尺度」と「正当な変革手段をとるべきだとする態度」は高かった。

㋺「スポーツ参加」においてスポーツを視聴して楽しむ場合も，プレイして楽しむ場合も，共に〝(よく)する〟ものの方が〝しない〟ものよりも，㋑の結果に付合していた。

㋩組織・団体に加入しているものの方が，政治家にたいする不信感は低かった。

㋥スポーツをする際，同好会よりもクラブに加入しているものの方が政治家不信が低かった。

以上の結果は，文化としてのスポーツの特性に基づく以上に，小集団としてのスポーツ集団のプレイヤーに及ぼす機能に根ざしている。すなわち，小集団は，①少数者の直接接触を基盤とし，②相互のコミュニケーションが行なわれ，③特定の課題を遂行する目的をもった，④一定期間存続し続ける集団であり，⑤成員にその集団の規範と価値の形成・補強を強いる大きなプレッシャーとして機能する集団である。それ故，スポーツ集団はプレイヤーが政治的社会化をすすめる際の一つの源泉となり得るのである。その際，とくに協調性を獲得し，集団の団結を高めるなかで[6]，また，プレイヤーは所属する集団の規範と価値の影響を受けるなかで，政治的社会化をすすめるべく位置づけられているのである。

しかしながら，スポーツ集団がプレイヤーの政治的社会化に関与しているといっても，その内容が問題なのである。小集団としてのスポーツ集団は，成員であるプレイヤーに社会規範と価値の形成・補強を強いることは事実である。しかしながら，それが政治的社会化を促すとは限らない。むしろ，調査結果は，スポーツ集団に入ってスポーツをすることが政治的社会化を遅らせる一つのエージェントとして機能していることを示唆しているのである。その背景には次の2点が考えられる。

まず第1に，スポーツ集団が，〝現実を肯定し，批判を好まない〟人間関係の様相を濃くしていることに根ざしている。

第2に，スポーツ集団は多くの場合，その集団を擁する社会の庇護・援助のもとに活動する場合が多いことに根ざしている。すなわち，経済的にも政治的にもスポーツ集団(組織・団体)は政府や自治体の援助を受けている場合が多いのである。こうした事情が政治的社会化を遅らせている遠因として敢えて指摘されるのである。

〝スポーツと政治的社会化〟に関して指摘されなければならない第2点は，スポーツに積極的な姿勢をもち，ルールを遵守し，且つルール遵守の高いコーチ・監督のもとで積極的な指導・育成を受けている場合に，政治的社会化が促進されるということである。すなわち，こうしたプレイヤーの政治家にたいする不信感は高かったのである。そして，高い批判精神のなかで高い「政治的受容」を示し，「正当な変革手段をとるべきだとする態度」も高かったのである。

こうした知見は〝スポーツと政治的社会化〟に関して指摘された第1の点と，矛盾する問題を含んでいるようにも考えられる。しかし，第2の点であげられた条件を満たす場合に，そうでない場合に比べて，政治的社会化が促進されると考えるべきであろう。

注・文献

(1) 斉藤耕二・菊地章夫編著『社会化の心理学』，川島書店，p. 253.1974.

(2) 例えば，ソビエト連邦においてスポーツがどのように国家目的に奉仕し，そのためにどのように組織・運営がされてきたかについては，Riordan, J., Sport in Soviet Society, Canbridge University Press, 1977, 藤原健固訳『ソビエトのスポーツ』道和書院，1979. に詳しい。

(3) 前掲書

(4) Agger, et.al., 1961, Rosemberg 1957. Zevin 1960. Alnond & Verba 1965, Arnove 1969, など

(5) 藤原健固，『スポーツと社会化』道和書院，1976.

(6) 前掲書，p. 153.